

【Veeam Backup & Replication】
クイックスタートガイド

Ver 1.0

2011年09月16日

株式会社クライム

目 次

1. はじめに.....	2
1.1. 本ドキュメントについて.....	2
1.1.1. 範囲.....	2
1.1.2. 対象バージョン.....	2
1.2. 更新履歴.....	2
2. Veeam インストールマシンから vSphere への接続手順.....	3
2.1. vSphere への接続手順.....	3
3. Backup Job 作成手順.....	5
3.1. Backup Job の簡易設定手順.....	5
4. Replication Job 作成手順.....	8
4.1. Replication Job の簡易設定手順.....	8
5. Restore 手順.....	11
5.1. Restore 手順(Backup からのリストア).....	11
5.2. Restore 手順(Replicatin からのリストア).....	13

1. はじめに

1.1. 本ドキュメントについて

1.1.1. 範囲

本ドキュメントは、Veeam Backup & Replication(※以下 Veeam)のインストール後から Backup、Replication、Restore の実行までの簡易手順を記載しております。

※詳細なオプション機能については各手順書をご参照下さい。

※日本語 OS の問題により、画面表示に一部欠けている箇所があります。
開発元には報告済みです。ご迷惑をお掛けしてしまい申し訳御座いません。

1.1.2. 対象バージョン

本ドキュメントは、Veeam の下記バージョンを対象としております。

- Veeam 5.x

1.2. 更新履歴

版	修正日	修正者	内容
1.0	2011/09/16(金)	Y.T	初版

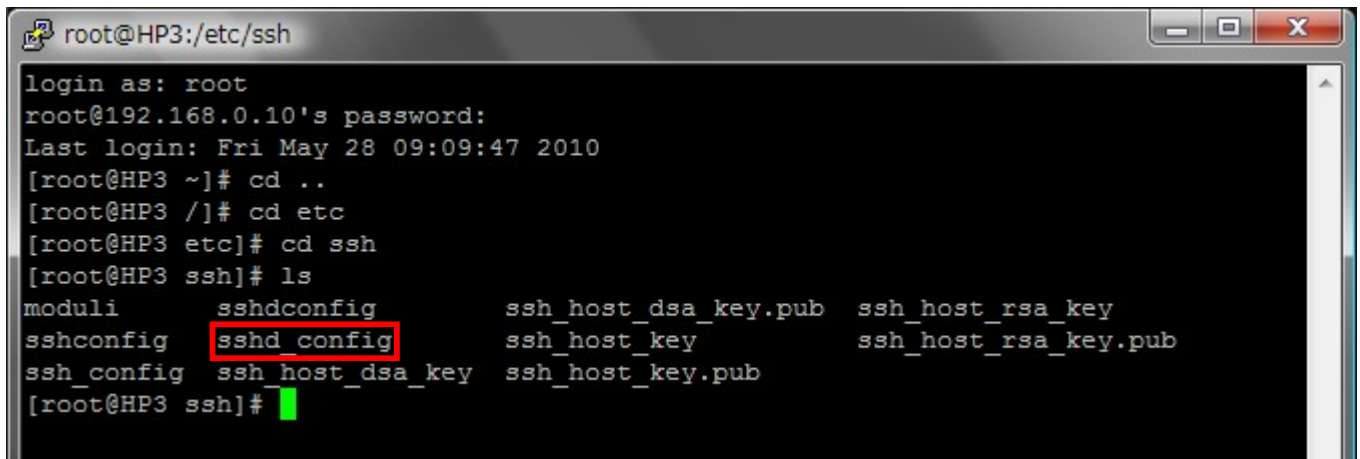
2. Veeam インストールマシンから vSphere への接続手順

2.1. vSphere への接続手順

Veeam から vSphere に接続する為に vSphere の設定の編集を行います。

※Veeam は vSphere、vCenter、Linux に接続できます。詳細な説明は
02_【Veeam Backup & Replication】サーバーコネクション手順書をご参照下さい。

① vSphere サーバーの sshd_config の内容を変更します。



```
root@HP3:/etc/ssh
login as: root
root@192.168.0.10's password:
Last login: Fri May 28 09:09:47 2010
[root@HP3 ~]# cd ..
[root@HP3 /]# cd etc
[root@HP3 etc]# cd ssh
[root@HP3 ssh]# ls
moduli          sshdconfig      ssh_host_dsa_key.pub  ssh_host_rsa_key
sshconfig       sshd_config      ssh_host_key          ssh_host_rsa_key.pub
ssh_config      ssh_host_dsa_key  ssh_host_key.pub
[root@HP3 ssh]#
```

② ファイル sshd_config を変更します。

【変更内容】

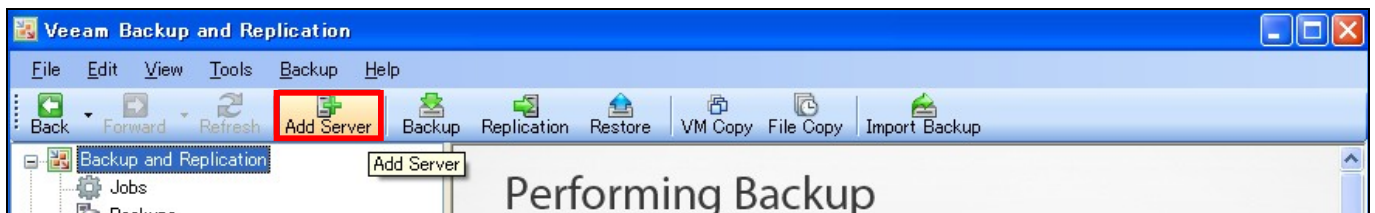
PermitRootLogin no

↓

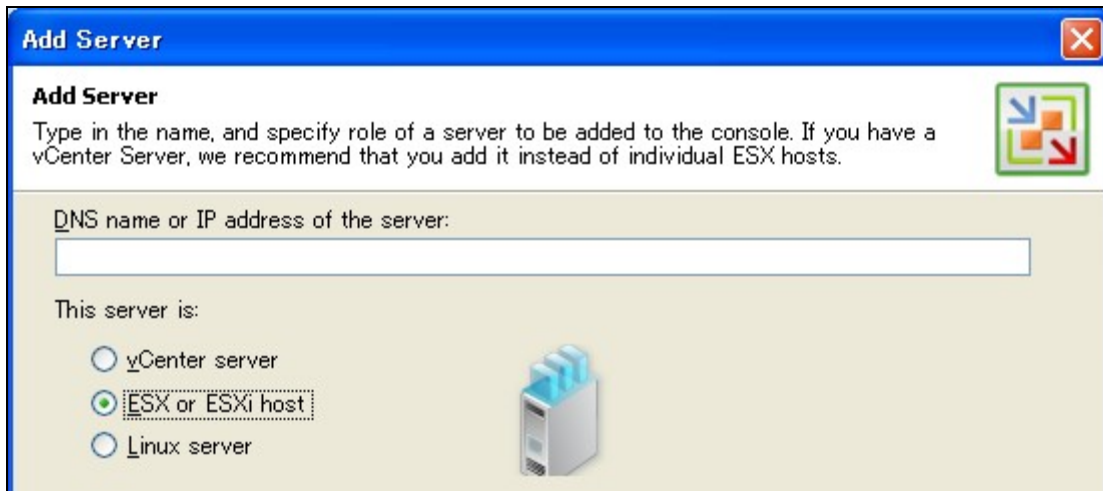
PermitRootLogin yes

に変更後にマシンの再起動を行います。

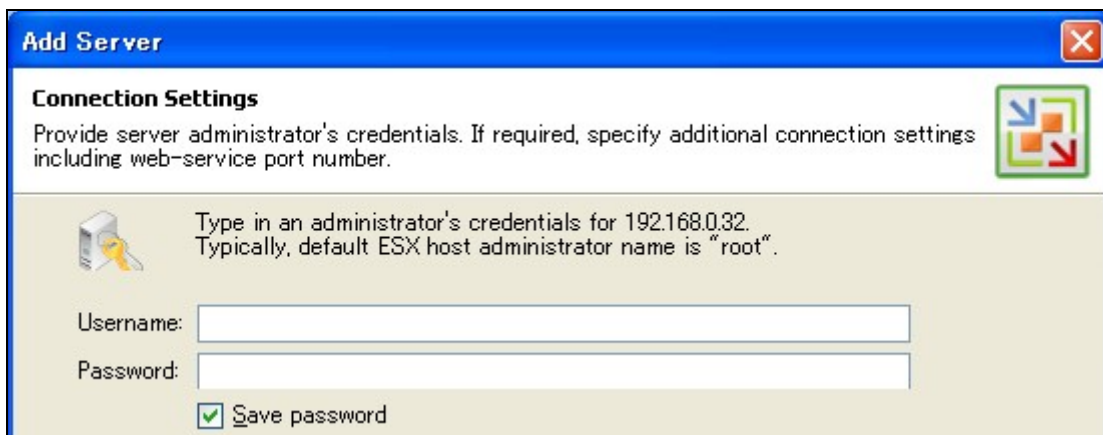
① Add Server をクリックします。



- ② 「ESX or ESXi host」 を選択して DNS 名または IP アドレスを入力してサーバーの情報を指定します。



- ③ vSphere への接続を行います。User name、Password を入力します。



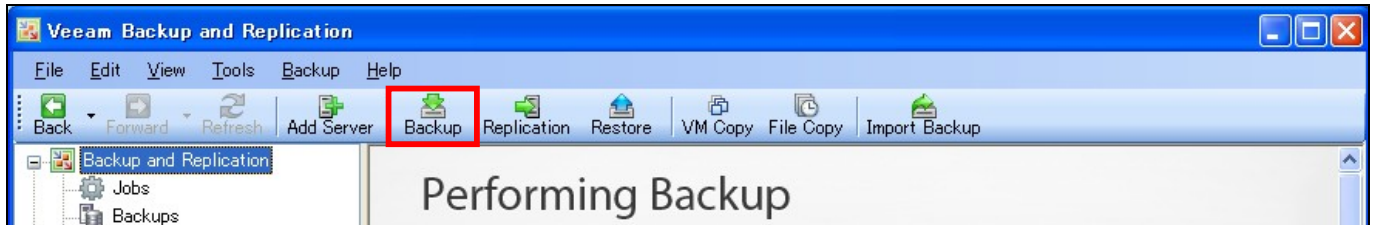
- ④ 「Finish>」をクリックすると Veeam の管理コンソールの左下に接続した vSphere の情報が表示されます。

3. Backup Job 作成手順

3.1. Backup Job の簡易設定手順

※Backup Job 作成時の各オプションの機能については
03_【Veeam Backup & Replication】バックアップ手順書をご参照下さい。

① メインウィザードから Backup をクリックします。



② 「Name」と「Description(概要)」を入力します。

※Job 名は半角英数字で入力して下さい。

③ Processing・Mode(処理モード)を選択します。

【Direct SAN access】

SAN 環境の場合でこのバックアップモードが利用可能です。

【Virtual Appliance】

Virtual appliance モードで処理を行うには下記の条件を満たしている必要があります。

※VMware の Hotadd 機能を利用して処理を行います。

1)vSphere ホストのライセンスが vSphere Advanced, Enterprise, Enterprise Plus license のいずれか

2)仮想マシンに Veeam Backup をインストールしていること

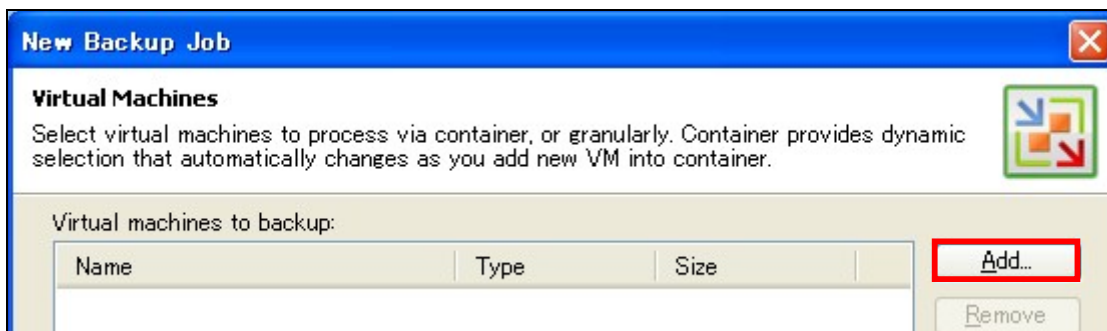
3 処理対象の仮想マシンと Veeam Backup インストールマシン、バックアップデータ格納先が
同じディスク内に存在すること

【NetWork】

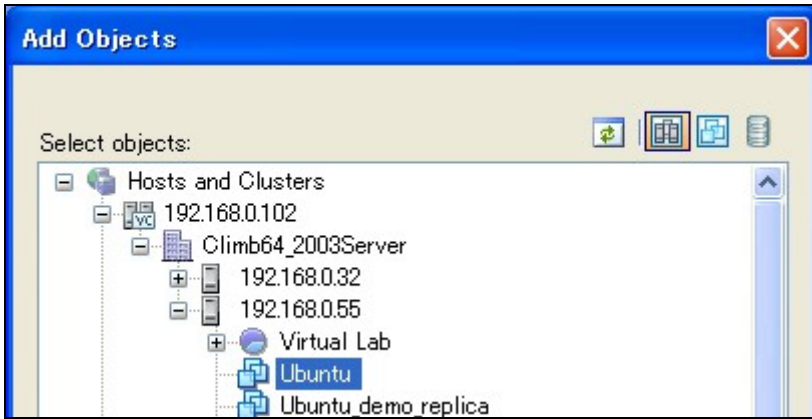
通常の LAN 環境(TCP/IP)の場合に選択するモードです。

④ Add をクリックして処理対象の仮想マシンを選択します。

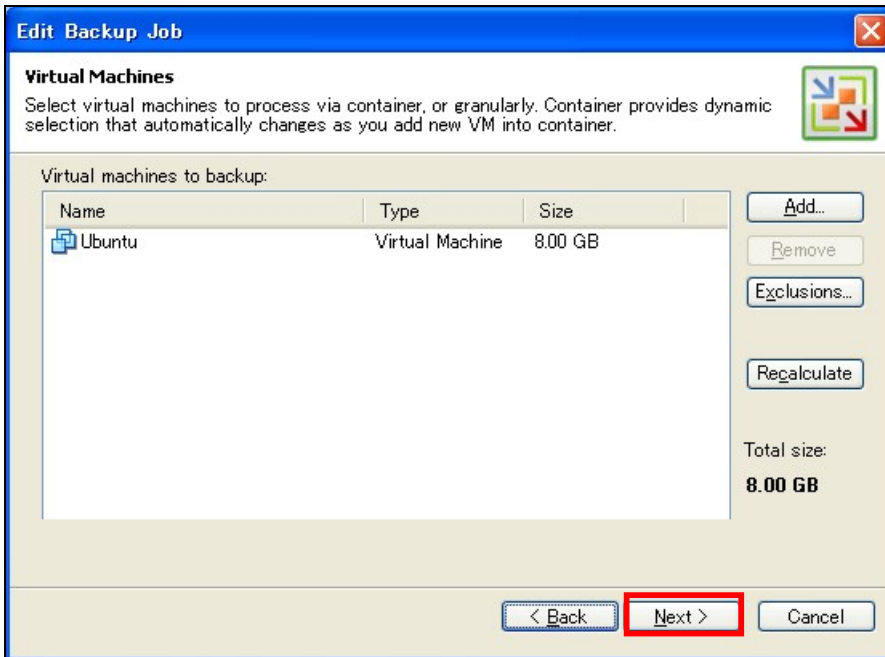
※仮想マシン名が日本語の場合、Backup Job 起動時にエラーになります。



⑤ バックアップする仮想マシンを選択します。



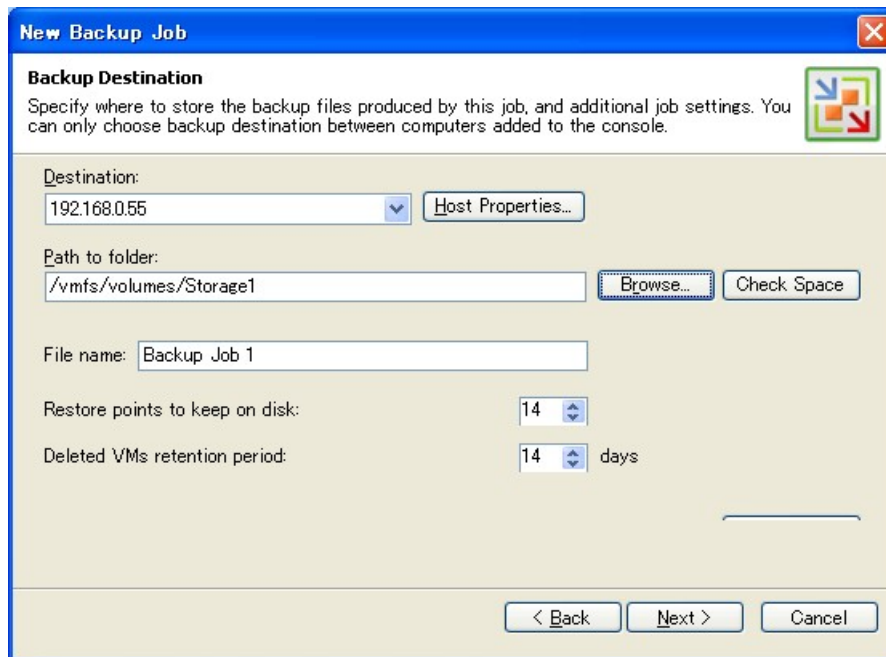
⑥ 「Next>」をクリックします。



⑦ バックアップ・ファイルの保存場所を指定します。

※バックアップ先のフォルダ名は半角英数字を使用することを推奨しております。

※バックアップ Job 作成時の「Advanced」 ボタンの表示に問題があります。



⑧ VSS 機能を設定します。

⑨ Job のスケジュール設定を行います。

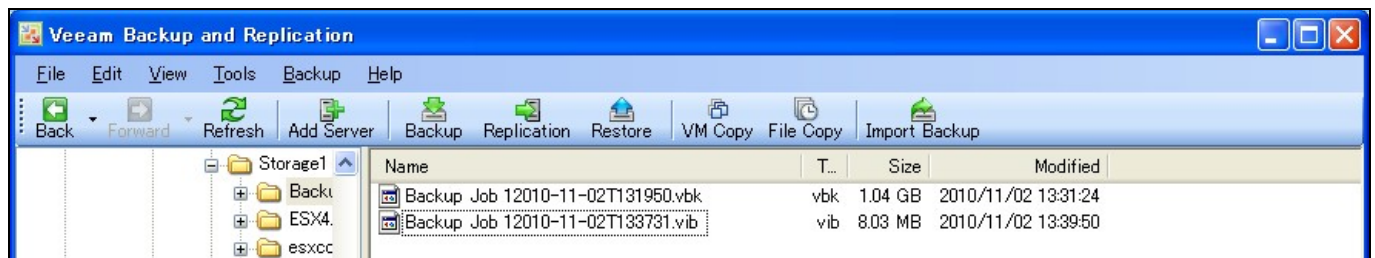
⑩ 「Finish」 をクリックすると Job が作成されます。

⑪ 作成した Job 実行するとバックアップデータは指定したフォルダに【指定した File name】. 拡張子の形式で保持されます。

フルバックアップ...拡張子 vbk

増分バックアップ...拡張子 vib

差分バックアップ...拡張子 vrb

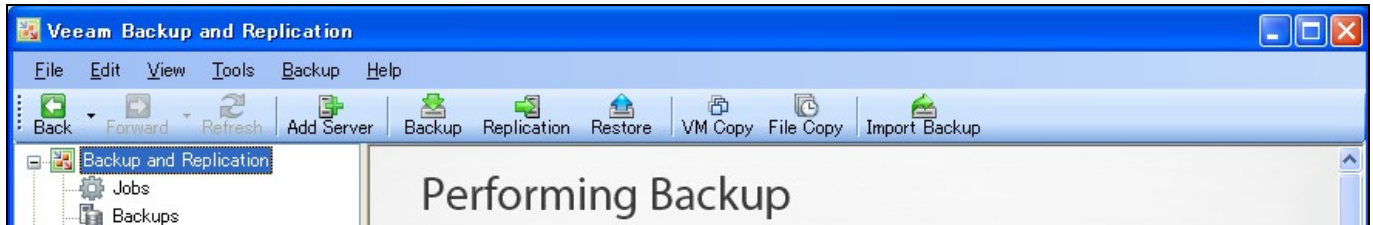


4. Replication Job 作成手順

4.1. Replication Job の簡易設定手順

※Replication Job 作成時の各オプションの機能については
05_【Veeam Backup & Replication】レプリケーション手順書をご参照下さい。

① メインウィザードから Replication をクリックします。



② 「Name」と「Description(概要)」を入力します。

※Job 名は半角英数字で入力して下さい。

③ Processing・Mode(処理モード)を選択します。

【Direct SAN access】

SAN 環境の場合でこのバックアップモードが利用可能です。

【Virtual Appliance】

Virtual appliance モードで処理を行うには下記の条件を満たしている必要があります。

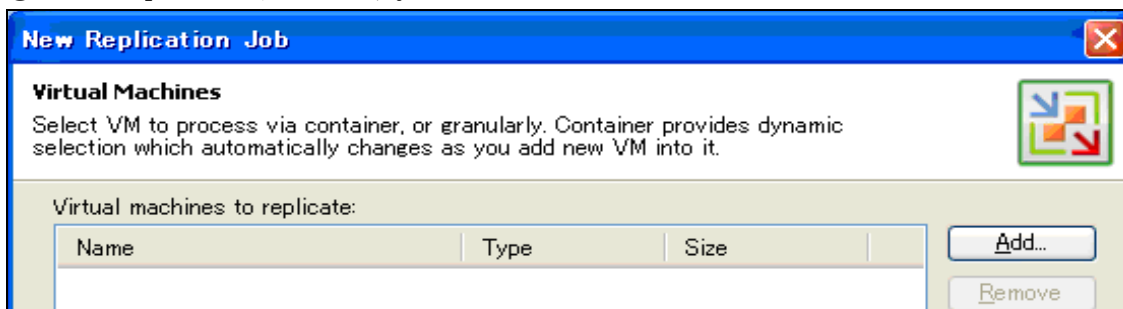
※VMware の Hotadd 機能を利用して処理を行います。

- 1)vSphere ホストのライセンスが vSphere Advanced, Enterprise, Enterprise Plus license のいずれか
- 2)仮想マシンに Veeam Backup をインストールしていること
- 3 処理対象の仮想マシンと Veeam Backup インストールマシン、バックアップデータ格納先が同じディスク内に存在すること

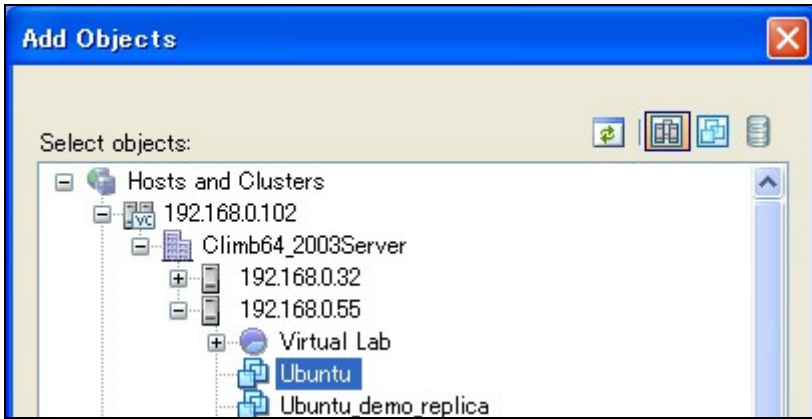
【NetWork】

通常の LAN 環境(TCP/IP)の場合に選択するモードです。

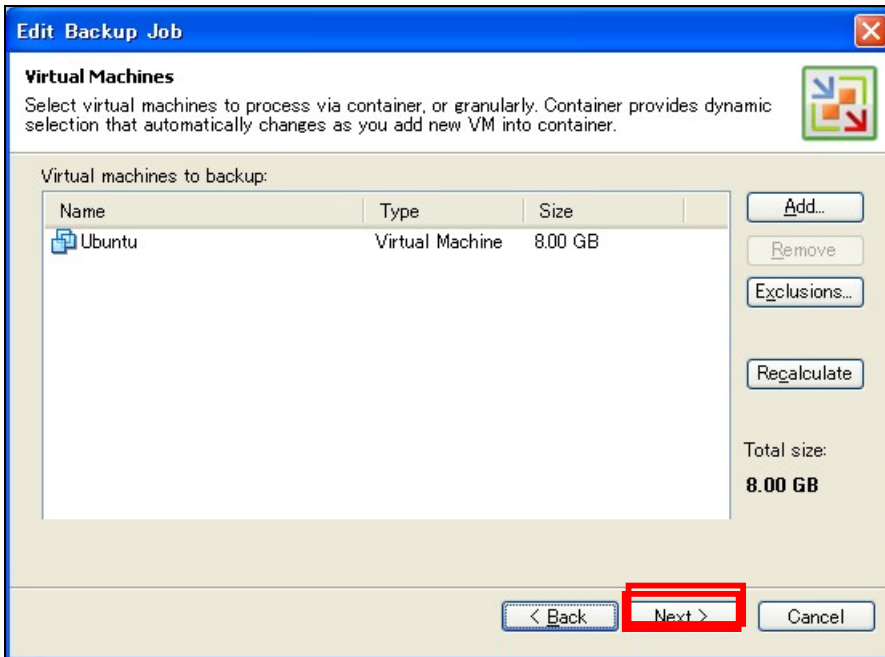
④ 「Add...」をクリックします。



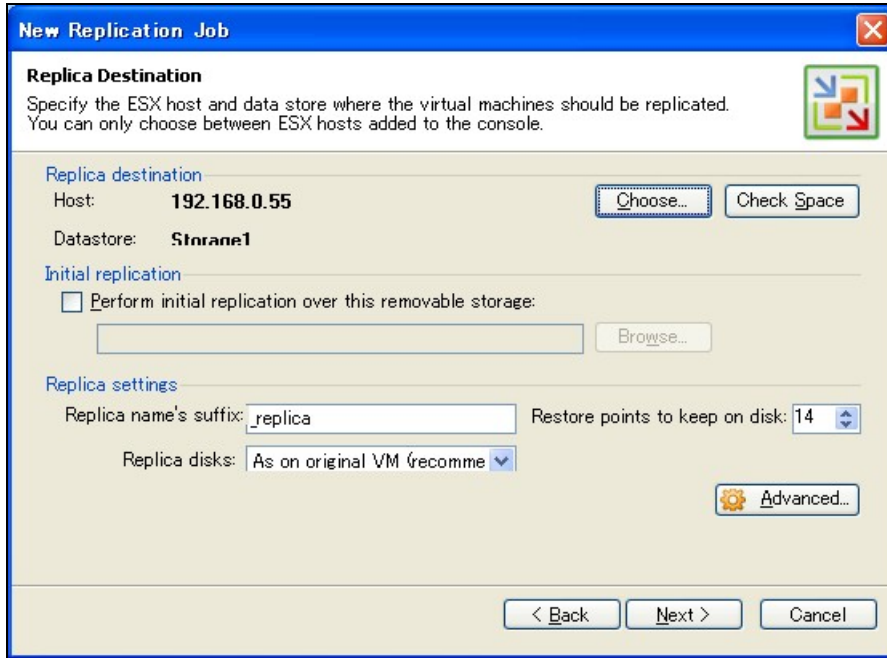
⑤ レプリケーションする仮想マシンを選択します。



⑦ 「Next>」をクリックします。



⑦ 「Choose...」 をクリックしてレプリケーション先のマシンの構成ファイルの格納場所を選択します。



⑧ VSS 機能を設定します。

⑨ Job のスケジュール設定を行います。

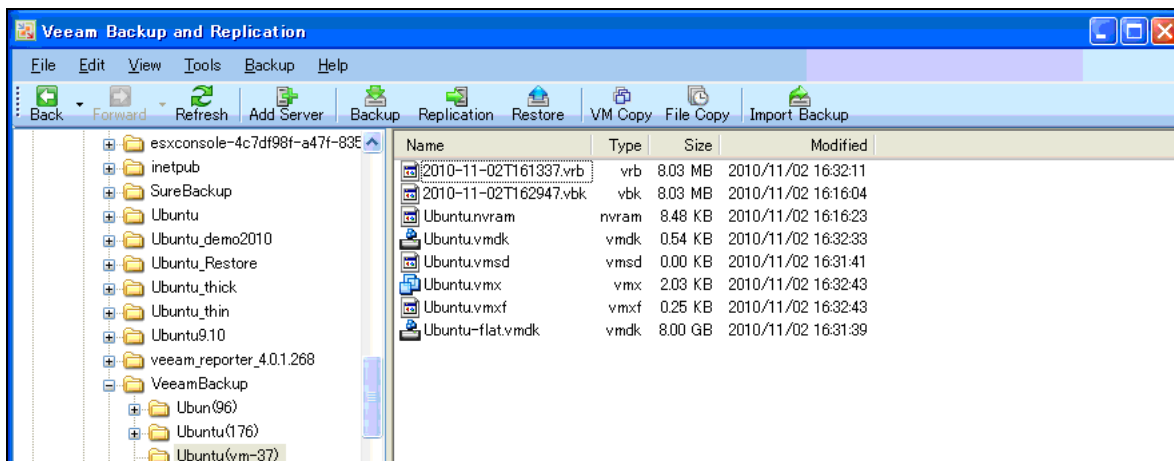
⑩ 「Finish」 をクリックすると Job が作成されます。

⑪ レプリケーションデータは指定したディスクの中にフォルダ「VeeamBackup」を自動で作成後その中に「レプリケーションを行った仮想マシン名 (数値)」フォルダを作成しデータを格納します。

※ 2 回目以降のレプリケーションデータは拡張子 vrb で格納します

※ (数値) は自動で指定します。

※ 下図のようにデータが格納されます。



※ 仮想マシンはパワーオフ状態で複製されます。

※ 複製元の IP アドレスが固定されている場合は複製された仮想マシンにも同じ IP が割り振られます。

【注意点】

Veeam で作成した仮想マシンのレプリカは Veeam の「Restore」画面から電源の ON/OFF を行います。

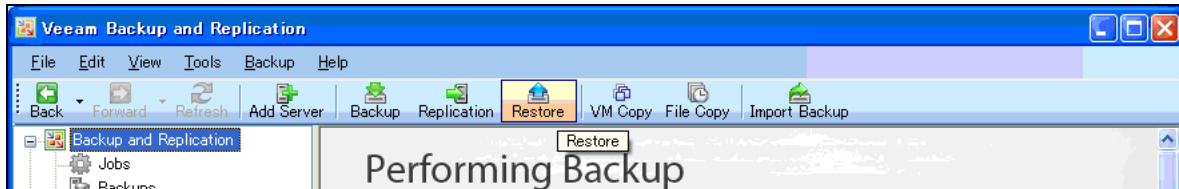
5. Restore 手順

※各 Restore 処理の手順については

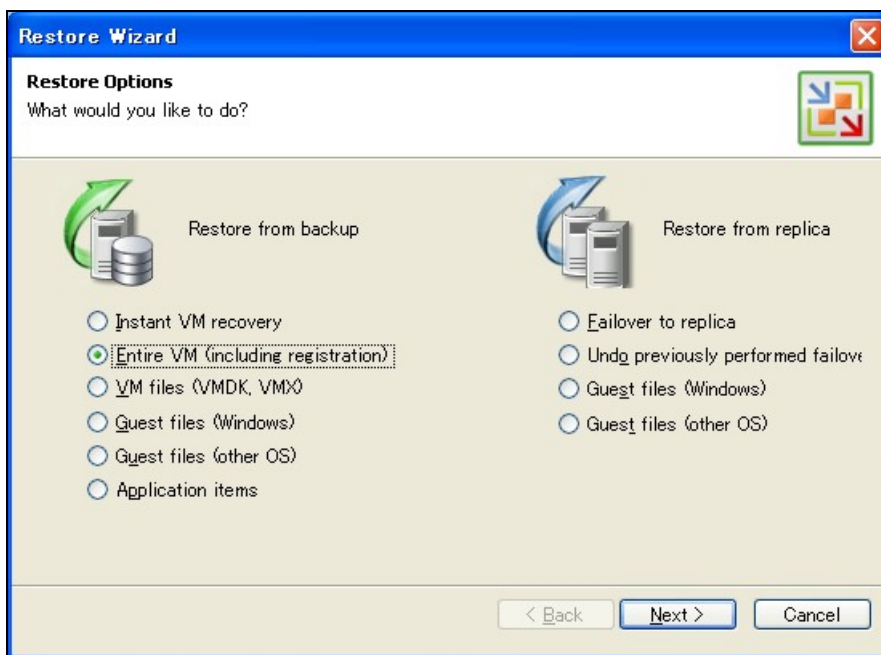
04_ 【Veeam Backup & Replication】 リストア手順書をご参照下さい。

5.1. Restore 手順 (Backup からのリストア)

① メインウィザードから Restore をクリックします。



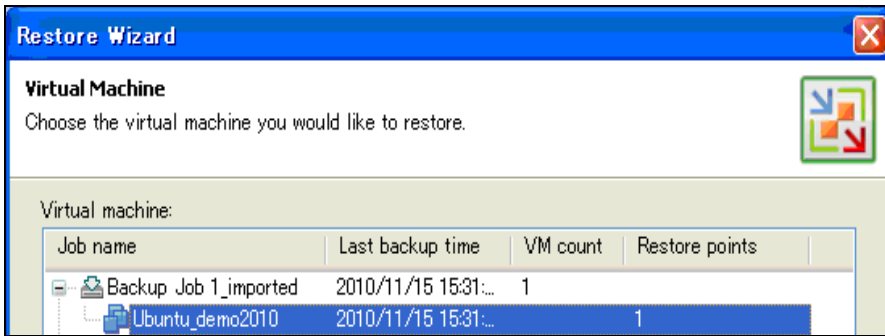
② リストアするタスクを選択します。



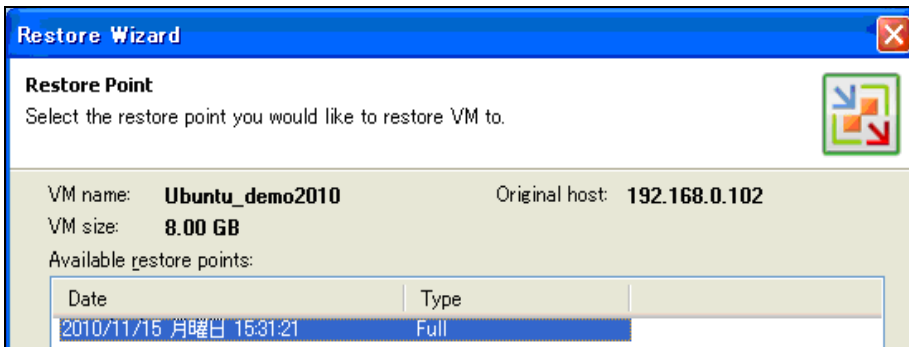
Restore from backup(バックアップしたデータを使用してリストアを行います。)

1. Instant VM recovery
バックアップしたデータから一時的に仮想マシンを作成します。
※通常のリストアに比べ高速なリストアが可能です。
2. Enter VM(including registration)
VM の内容全部をリストアします。
3. Specific VM files only(VMX VMDK)
VM のファイルのみリストアします。
4. Guest files(Windows)
Windows 系 OS のファイル単位のリストアを行います。
5. Guest files(other OS)
Windows 系 OS の以外のファイル単位のリストアを行います。
6. Application items

① リストアしたい仮想マシンを選択します。

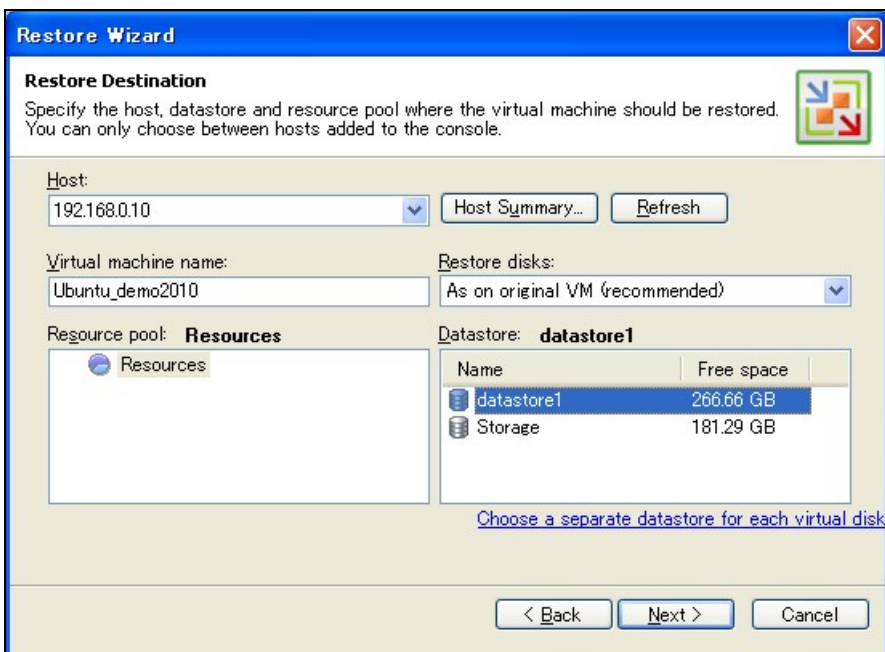


② リストア・ポイント(どの時点のバックアップデータをリストアするか)を選択します。



③ 下記の入力を行います。

- 1) リストアした仮想マシンを格納する vSphere ホスト
- 2) リストアを行い作成される仮想マシンの名前
- 3) Resource pool
- 4) Restore disks(ディスクタイプ)
- 5) リストアしたデータを格納するディスク

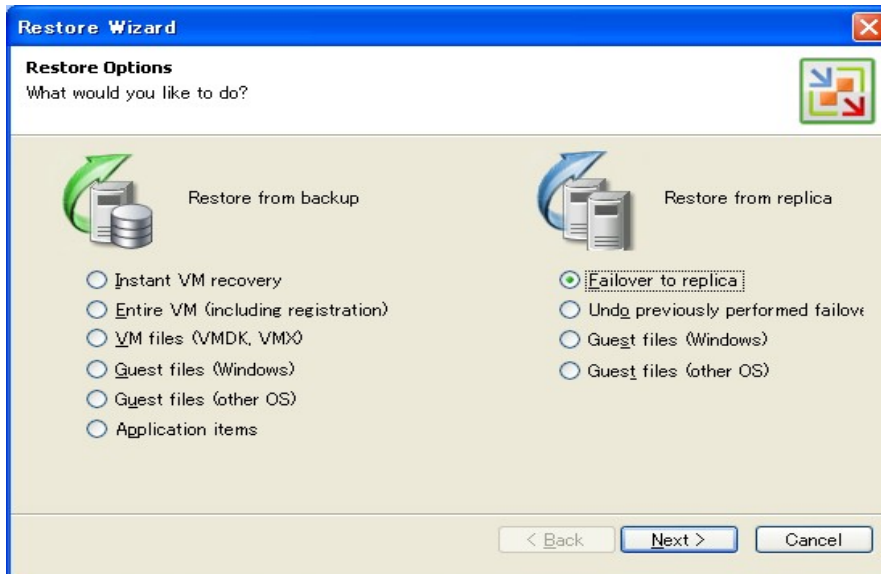


④ 「Finish」をクリックするとリストア処理が開始します。

5.2. Restore 手順 (Replicatin からのリストア)

Veeam Backup のレプリケーション機能を使用して作成した仮想マシンの電源を ON/OFF する際には Veeam Backup の Restore 画面の「Restore from replica」の機能を使用します。

① 「Failovere to replica」を選択します。



Restore from replica(レプリケーションしたデータを使用してリストアを行います。)

1. Perform failover

Veeam Backup のレプリケーション機能を使用して作成した仮想マシンの電源を ON する際に使用します。

2. Undo previously performed failover

Veeam Backup のレプリケーション機能を使用して作成した仮想マシンの電源を OFF にする際に使用します。

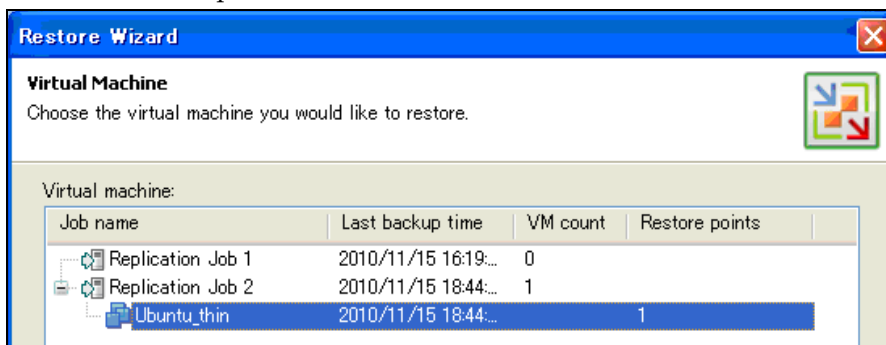
3. Individual guest files

ゲスト OS のファイルをリストアします。

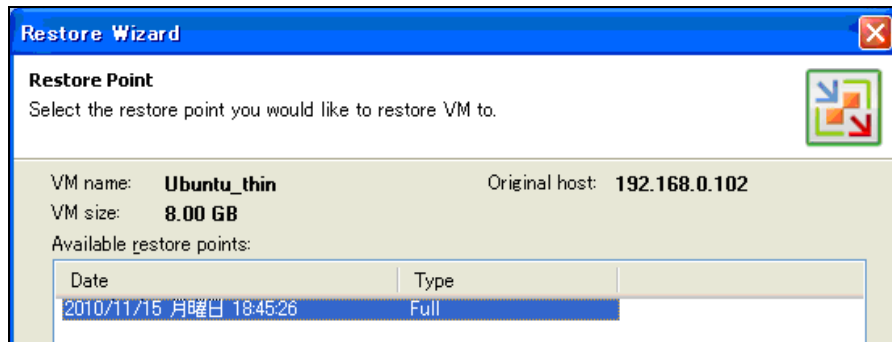
4. Guest files(other OS)

Windows 系 OS の以外のファイル単位のリストアを行います。

② 実行した Replication Job からどの仮想マシンを電源 ON にするか選択します。



③ リストア・ポイント(どの時点の内容で仮想マシンを電源 ON にするか)を選択します。



④ 「Finish」を押すと電源が ON されます。